

重点11 教職員研修の充実

1B 教員の資質向上（幼稚園）

ねらい

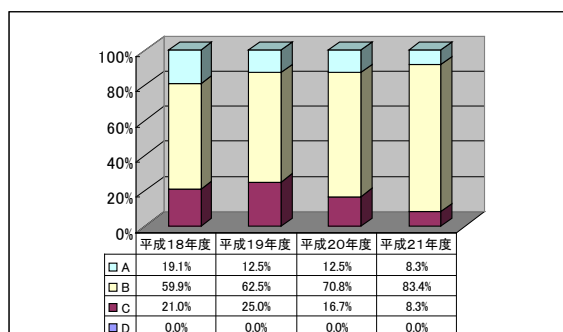
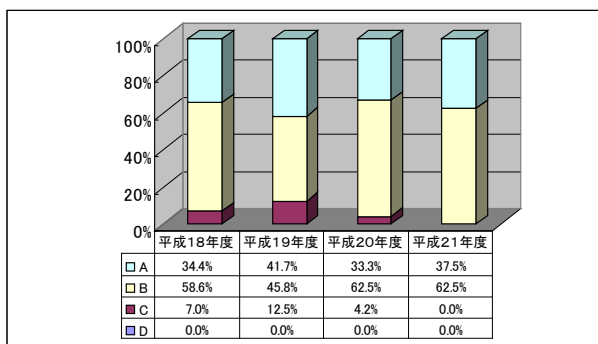
幼稚園の生活において、一人一人の幼児が発達に必要な経験を得られるようになるためには、教師が幼児の発達の特性や生活の流れなどに即して、幼児のかかわる環境を構成し、適切な援助をしていくことが大切です。そのために、教師が様々な観点から研修を進めることで、教師としての専門性を磨き、資質の向上を図っています。

現状と課題

○ 研修に関する園の反省

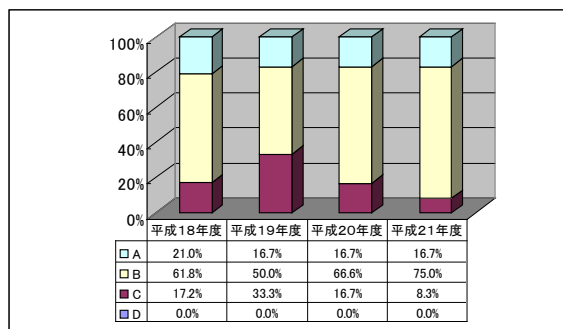
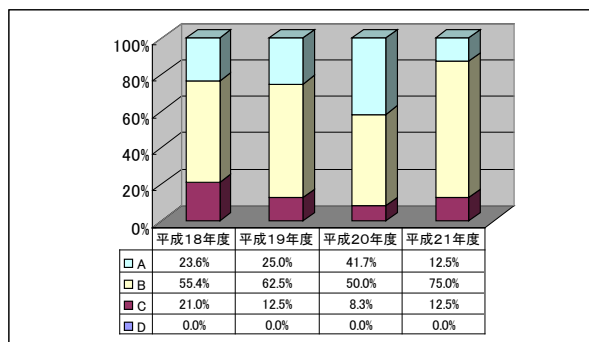
Q1 学び合う教職員集団づくりができたか。

Q2 計画的・継続的な研修が実施できたか。



Q3 教育力向上のため保育公開ができたか。

Q4 研修の工夫・改善がされたか。



【 「A」:十分 「B」:おおむね十分 「C」:やや不十分 「D」:不十分 】

- Q1の学びあう教職員集団づくりは、すべての事を進めるための基本と考えています。それが、「十分」・「おおむね十分」との回答が100%に達したことで、園内の努力で教職員の関係づくりが充実したことがわかります。
- Q2, Q3, Q4の「やや不十分」とする園は年々減少しており、園における研修体制が充実していると考えられます。これらが0パーセントに至るためには、幼稚園が地域等との連携を大切にした園行事と日々の保育をともに充実させるカリキュラムの編成が必要と考えます。
- Q2の計画的・継続的な研修で、「十分」と「おおむね十分」の回答率の増減傾向が逆になっています。このことから、研修内容の深まり等に課題を持つ園が多いと考えます。

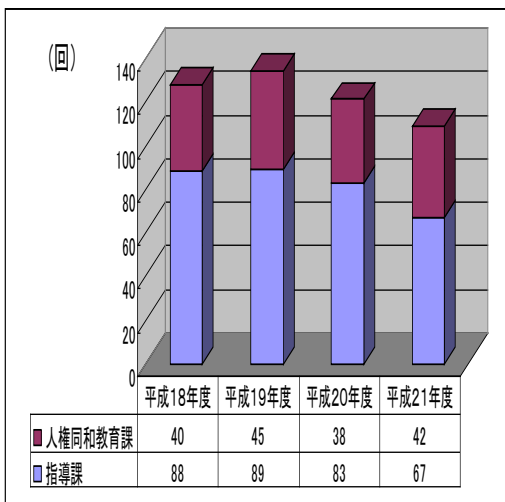
- ・すべての項目において、「十分」「おおむね十分」との回答が87%から91%の取組をしています。次へのステップとして、取組に対して成果の検証をするのが課題と考えます。
- ・健康な心と体を育てる研修や、食育を主題にした研修に多くの園が取り組み、幼児の食への意欲や体力向上、保護者の意識改善等、一定の成果が見られます。

今後の方向性

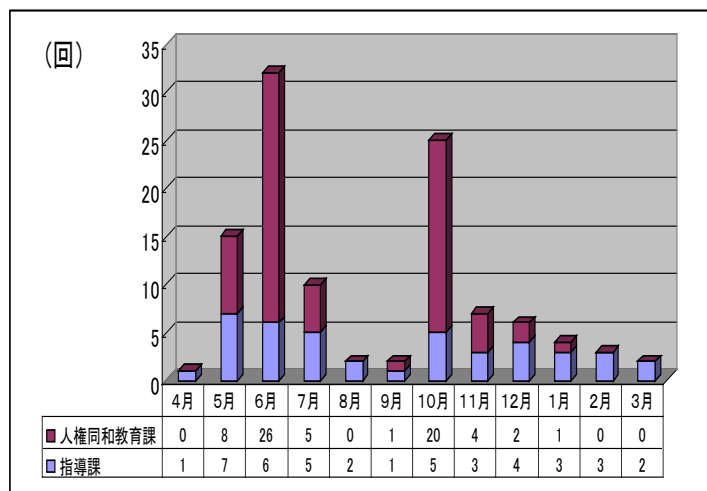
- 職員全員で研修を進めていく体制や研修の工夫・改善に努めていますが、園づくりビジョン達成に向けた計画的・継続的な研修を進めるため、研修時間の確保や研修会の持ち方など、運営面について一層の見直しを図ります。
- 保育公開など研修会の持ち方を工夫し、保育園・小学校・中学校・地域との連携をさらに進めていきます。また、自己評価（保護者アンケートの結果も考慮する）を積極的に行い、保育内容の見直しや改善を図り、資質向上に努めます。
- 幼稚園では、幼児の遊びや体験を通じた総合的な指導を行い、身近な人や環境とのかかわりを重視した教育を進めています。また、友だちとのかかわりを通して、生きる力の基礎の育成に向けた研修も進めていきます。さらにステージ研修等を充実させていきます。
- 教職員の専門性を高めるため、実践記録をもとに幼児理解や指導方法の改善につながる研修を深めます。

園内研修への指導主事の参加回数

<参加回数の推移>



<平成21年度年間参加回数の推移>



(四日市市障害のある子どもの保育研修会の専門委員会の業務における派遣回数を含む)

- ・幼稚園では積極的に保育公開に取り組んでおり、毎年、各園 2~3 回程度要請訪問を実施しています。